



# 大分建設新聞 フォトコンテスト



## 結果発表

「土木の日、大分建設新聞フォトコンテスト」へのたくさんのご応募、誠にありがとうございました。ツイッター、インスタグラムからの応募も受け付け、高校生を含みます県内外の幅広い年齢の方々から力作が寄せられました。改めてお礼申し上げます。11月1日、大分市の大分県建設会館にて、県美術協会写真部顧問の芦刈博美先生を審査委員長に、厳正な審査を行いました。審査委員長をはじめ各委員も、甲乙つけがたい作品を目の前にし、選考に苦慮した次第であります。弊社を含め、共催、協力のBUILD OITA(おおいた建設人材共育ネットワーク)、大分県建設協会と同青年部会、大分県土木施工管理技士会では、これからも建設関連産業の魅力発信のため、さまざまな活動に取り組んでまいります。

- ①撮影場所または施設名
- ②作品についてのコメント
- ③審査委員長の講評



## 最優秀賞

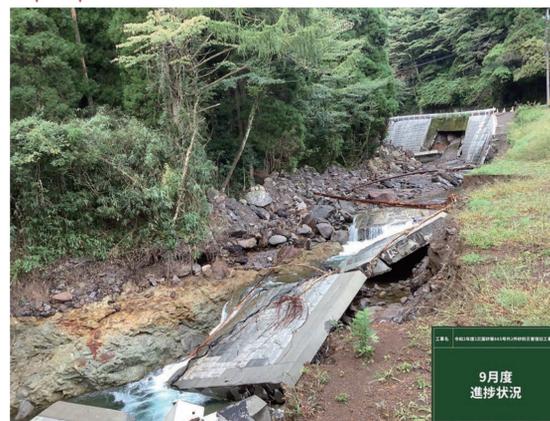


輝く現場女子  
高島 綾沙(36) / 伸和建设(株)

- ①工場排水処理施設
- ②建設現場で働く女性が、笑顔でもっと活躍できる建設業を目指す!
- ③夏の暑い日に撮影したという季節感が出ている。女性技術者の表情もマスク越しに見え、すばらしい写真である。



## 大分県建設協会会長賞



台風14号・・・ 深田 秀明(48) / 株式会社日建総合建設

- ①由布市湯布院町湯平
- ②湯平の災害復旧の現場です。前回の台風で被害を受け、やっと復旧の目途がたったのに、今回の台風ですべてやりなおしです。自然の驚異にはお手上げです。
- ③災害を写した写真が少ない中、現状を捉えた一枚である。電子黒板も付いているので状況も分かり、目を引いた写真である。



## 優秀賞

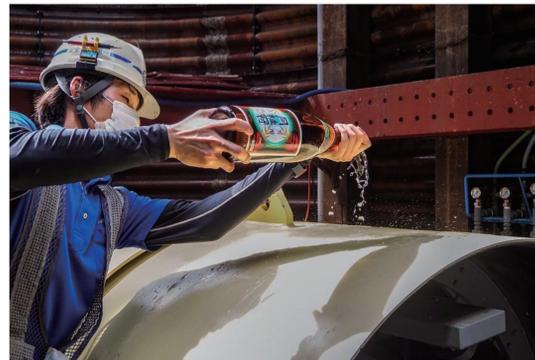
### 生まれ変わる別府タワー

後藤 阿也(37) / 一般

- ①別府タワー
- ②生まれ変わっていく別府タワーが楽しみで撮影しました!
- ③別府のランドマークである別府タワーを、次世代に残そうとしている良い写真。旅館なども写り、別府らしさが垣間見える。



## 大分県建設協会青年部会長賞



僕とお神酒と掘進機 城土 遥華(20) / 三浦国土建設(株)

- ①大分市大石町下水道工事(発進立坑内)
- ②直径1.2mの雨水管を通す下水道工事にて、無事に到達するよう祈願いたしました。
- ③現場従事者しか撮影できない写真。お神酒をかけ工事の安全を祈願する姿、お神酒が流れる様子、光の捉え方と申し分ない写真。

## 佳作



高所作業  
宮森 誠一(64) / 一般

- ①天ヶ瀬近くの玖珠川
- ②日田市の天ヶ瀬近くを車で通りかかったら、クレーンで吊るされて作業する人が見えたので、車から降りて撮影させてもらいました。

秋晴れの下で  
山口 和博(68) / 一般

- ①大分市大分川園岸
- ②現在大分川では護岸改修工事をしています。晴れた青い秋空に黄色いクレーンのアームが空に向かって伸びているのが印象的でした。



憧れ  
佐藤 衣代(57) / 一般

- ①大分市七瀬川河川敷
- ②川底補強工事が行われていた七瀬川で、河川敷の歩道を散歩していた男の子が立ち止まって、大型クレーン車をじっと眺めていました。働く車が大好きだと教えてくれました。



復興の架け橋  
岡田 誠(47) / 九建設(株)

- ①天ヶ瀬温泉「赤い吊り橋」
- ②2020年7月豪雨で流された吊り橋が、復興のシンボル橋として天ヶ瀬温泉地に再建されました。橋台付近には、かわいいお地蔵様が「赤い吊り橋」を見守っています。



懐かしのテトラ  
〜嗚呼 反省  
鬼原 浩敏(59) / 株式会社

- ①豊後高田市見目
- ②懐かしいテトラポットを移動させていたのですが、サポートしていた動作が「反省だけなら誰でもできる」のポーズに似ていて、思わず笑ってしまいました。

## BUILD OITA 会長賞

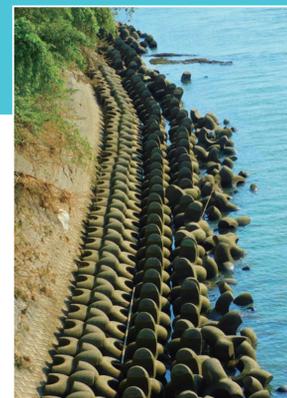


ドシャ

水上 蒼斗(16) / 大分上野丘高校

- ①大分川河川敷
- ②バックホウが、ネットの袋に石を流し込む様子を撮影しました。シャッタースピードを遅くすることで、石が落ちる際の迫力と、土煙が上がる現場作業の動き、空気感を表現しました。
- ③石が落ちている瞬間を撮影した写真だが、プレ方もうまく表現されている。色調も良く、高校生とは思えない写真である。

## BUILD OITA いいね賞



消波道

亀山 晴輝(17) / 鶴崎工業高校

- ①大野川
- ②テトラポットの別称として「消波ブロック」というものがあるので、そこから「消波」、テトラポットが連なっている光景が道に見えたので、このような題名にしました。
- ③海にあるものと違う形なので、造形的に見ても面白い。また、川岸を守っている姿が分かる。光も遮光的に捉えており、バランスも良い。

## 総評



審査委員長 芦刈博美(大分県美術協会写真部顧問)  
審査を進めていき、良い写真が残った。季節感、ニュアンス性、工事などに携わる人々の表情などが入った写真が上位になった。  
一般の方は身近にあるもの、工事関係者は日々記録している写真の中に、きっと面白い写真があるはずだ。すばらしい写真をたくさん応募していただき、ありがとうございました。

・応募点数 103点  
(メール、ツイッター、インスタグラム)  
※10/24朝に確認できたデータの合計数です。

・審査  
第1次:10月25日  
第2次:11月1日  
・第2次審査委員  
浦辺裕二(大分県建設協会専務理事)  
大分県建設協会事務局(BUILD OITA事務局兼任)  
川邊洋子(大分建設新聞社代表取締役)

ご応募ありがとうございました